

登録販売者の意識調査と資格取得までの勉強時間との関係

○尾関 佳代子¹, 前嶋 克幸¹, 安達 士郎¹, 深津 英人¹, 二橋 純一¹, 野嶋 芳紀¹
(¹杏林堂薬局)

<目的> 2009年6月より薬事法が改正され、登録販売者という資格が新設された。そこで、新規登録販売者を対象として、資格を取ろうと思った動機、資格取得のための勉強時間や勉強期間、資格取得の前後で変わったこと、薬の販売で困っていること、薬剤師とどのように連携していきたいか、今後どのように仕事に取り組みたいか等、現在の意識・実態はどのようなものなのかを明らかにし、その中で個人の思いを特に反映すると思われる資格取得のための勉強時間・期間に関連するものは何かを探索する。

<方法> 2010年6月中旬より6月末までの期間、新しく登録販売者の資格を得た杏林堂薬局従業員約400名の内、ランダムに抽出された184名の登録販売者それぞれに意識、実態に関する自記式質問紙の記入を依頼、回答を分析した。

<結果・考察> 「資格取得のための勉強時間・勉強期間」とクロス集計で有意差がついた項目を見てみると、個人の思いの強さが一番反映されると思われる「資格取得のきっかけ」の中の項目が多かった。消極的な理由（会社からの薦め）や打算的な理由（手当てが付く）で資格を取ろうと思った人は、積極的な理由の人（薬について詳しく知りたかったから、接客に知識を活かしたいから、薬剤師の手助けがしたいから）に比べ、勉強時間、期間が短い傾向にあった。また、勉強期間の短い人ほど、薬剤師に頼っている傾向がみられた。（「接客で困った時には、薬剤師から助言を与えてほしい」で有意差）これは勉強時間の短い人の方が、自分の知識に不安をもっていることの表れであると考えられる。これらのことから、資格取得のための勉強期間、勉強時間は登録販売者という職業人としての個人の姿勢をよく反映していると思われる。